

因幡電機産業株式会社
2024年3月期
第2四半期決算説明資料

因幡電機産業株式会社 東証プライム：9934



ただ今より、因幡電機産業株式会社「2024年3月期第2四半期決算」の説明を始めさせていただきます。

私は、代表取締役社長の喜多でございます。

どうぞ宜しくお願いいたします。

2024年3月期 第2四半期決算概要

中期経営計画

2024年3月期 業績予想

見通し、計画、目標等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

まず、2024年3月期第2四半期決算の概要と中期経営計画についてご説明いたします。

その後、業績予想についてご説明させていただきます。

連結損益計算書

(百万円)

	FY22 2Q	構成比	FY23 2Q	構成比	増減額	増減率
売上高	144,121	100%	158,787	100%	14,665	10.2%
売上総利益	25,217	17.5%	27,190	17.1%	1,973	7.8%
販管費	16,317		17,391		1,073	6.6%
営業利益	8,900	6.2%	9,799	6.2%	899	10.1%
営業外損益	1,560		879		-681	-43.6%
経常利益	10,461	7.3%	10,679	6.7%	218	2.1%
特別損益	465		290		-174	-37.5%
税金等調整前 四半期純利益	10,926	7.6%	10,969	6.9%	43	0.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,502	5.2%	7,484	4.7%	-17	-0.2%

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しております。
また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示しております。

スライドの資料は連結損益計算書を表示しております。

売上高は、前年同期比で10.2%増加の、1,587億8,700万円となりました。

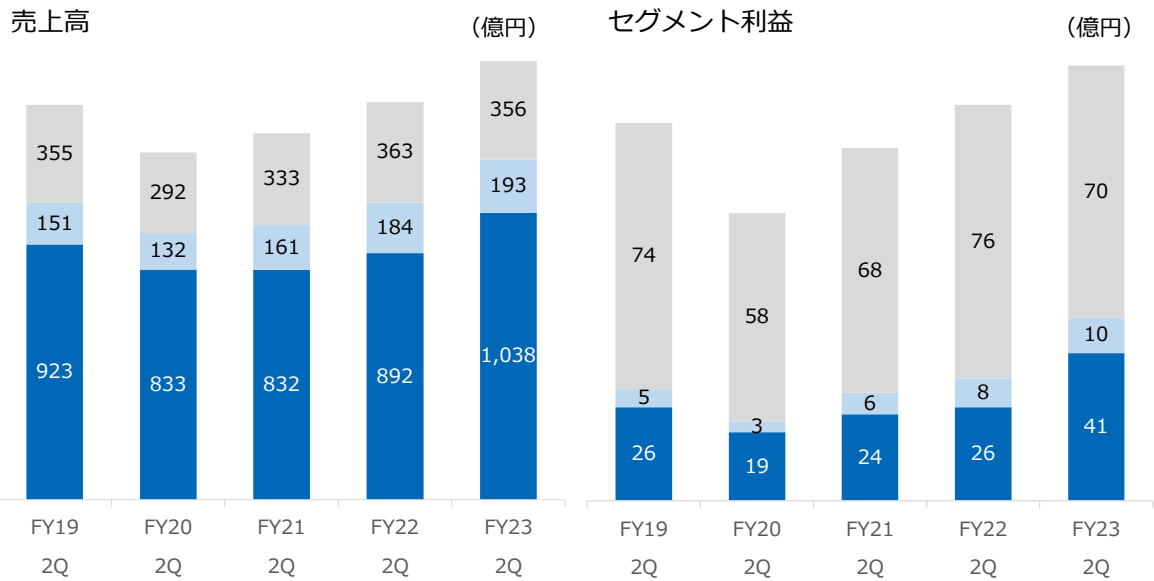
売上総利益は、7.8%増加し、271億9,000万円、
売上総利益率は、0.4ポイントダウンの17.1%となりました。

人件費や研究開発費の増加などがあったものの、
営業利益は、10.1%増加の、97億9,900万円となりました。

経常利益は、2.1%増加の106億7,900万円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、政策保有株式における売却益の減少により、
0.2%減少し、74億8,400万円となりました。

セグメント別 業績推移

■ 電設資材 ■ 産業機器 ■ 自社製品



※FY21より収益認識に関する会計基準等を適用し、FY20以前の遡及適用はしていません。

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

INABA

4

次の資料はセグメント別の業績推移をグラフ化しております。

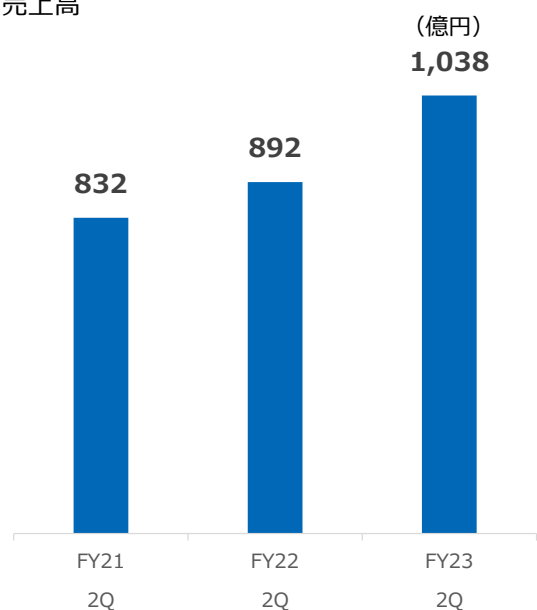
セグメントにつきましては、商社部門の「電設資材事業」と「産業機器事業」、そしてメーカー部門の「自社製品事業」と、大きく3つに分類しております。

ご覧の通り、売上構成では商社部門が大きなウェイトを占めておりますが、利益構成ではメーカー部門の「自社製品事業」が柱となっております。

当社の事業構造の大きな特徴でございます。

次に、各セグメントの業績につきまして、順次ご説明いたします。

売上高



売上高 前年同期比+16.3%

物流コストや原材料価格の高騰を受け、電設資材全般において販売価格の上昇が継続するなか、電線ケーブル類の販売が好調だったことに加え、首都圏再開発や製造業の設備更新、データセンターなどの大型物件向けに防災設備や受配電設備等の納入があった結果、増収。

参考指標

	前年同期比	
	FY22 2Q	FY23 2Q
民間非居住建築物 着工床面積	+14.7%	Δ18.5%
新設住宅着工戸数	Δ0.7%	Δ6.2%

出所：国土交通省

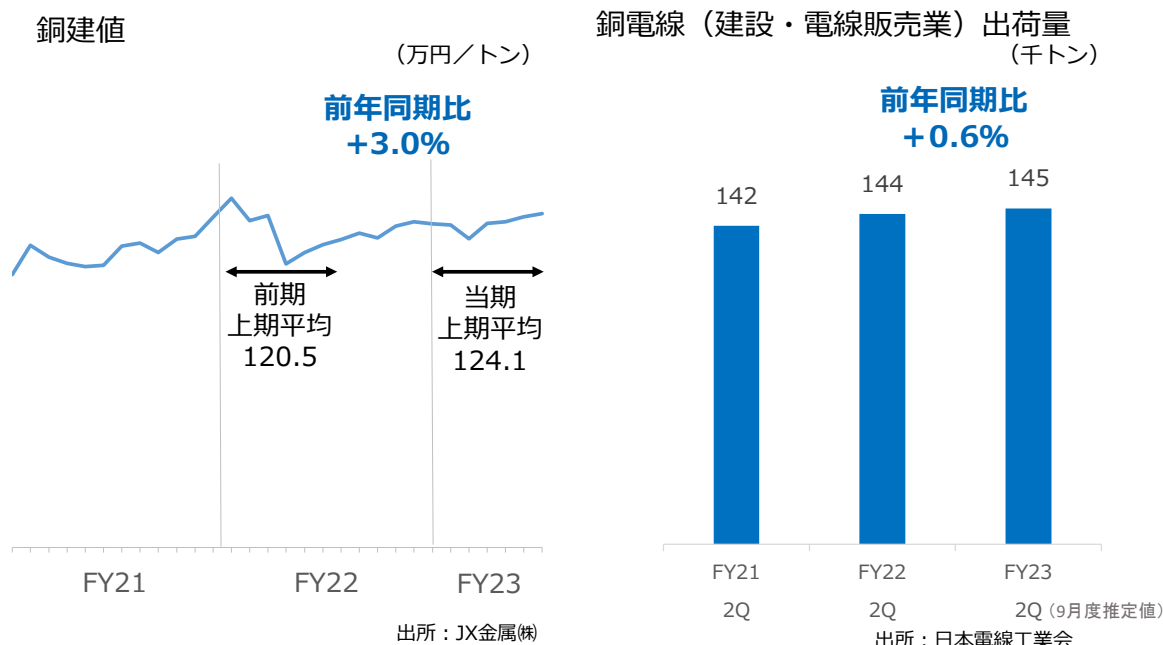
まず、電設資材事業の業績についてご説明いたします。

電設資材事業は、オフィスビル、商業施設、工場、住宅向けに電線や照明器具、受配電設備などの電設資材を販売しております。

売上高は、前年同期比で16.3%増加し、1,038億円となりました。

物流コストや原材料価格の高騰を受け、電設資材全般において販売価格の上昇が継続するなか、首都圏再開発や製造業の設備更新のほか、データセンターなどの大型物件を取り込み、好調に推移いたしました。

また、商品別では電線ケーブル類をはじめ、防災設備や受配電設備の売上が伸びてまいりました。



Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

この資料は、電線に関する銅の市況を示したスライドになります。

左側の折れ線グラフは国内における「銅建値」、
右側の棒グラフは建設・電線販売業における「銅電線の出荷量」の推移を表しております。

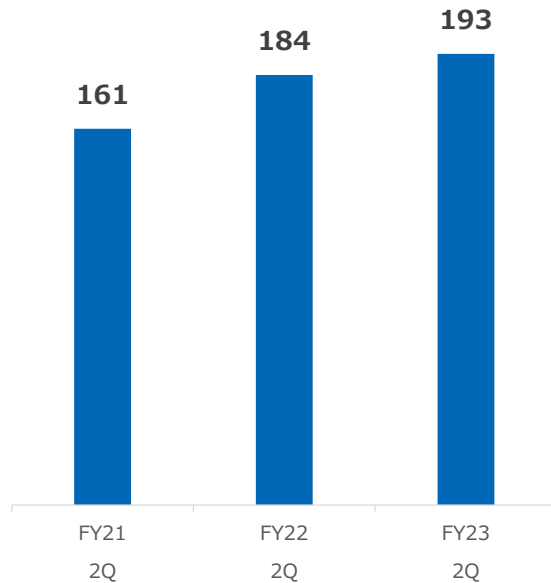
銅建値は高い水準を維持し、前年同期比では 3.0%のプラスとなり上昇傾向が継続いたしました。

一方、建設・電線販売業における銅電線の出荷量は、前年同期比で微増となりました。

当社では、販売価格の適正化に加え、在庫施策、営業努力により販売量も業界平均を上回り、電線の売上は前年同期比で約 11%増加いたしました。

売上高

(億円)



売上高 前年同期比+4.5%

コロナ禍の巣ごもり需要縮小などによるデジタル関連需給の悪化を受け、半導体関連向けの販売が減少に転じたものの、人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景に製造業における設備投資が底堅く推移したことにより、制御機器等の販売が増加。

参考指標

	前年同期比	
	FY22 2Q	FY23 2Q
電気制御機器 国内出荷額	+6.2%	+3.8%
電子部品・デバイス 生産実績	8月累計 +1.5%	8月累計 Δ7.7%

出所：日本電気制御機器工業会
電子情報技術産業協会

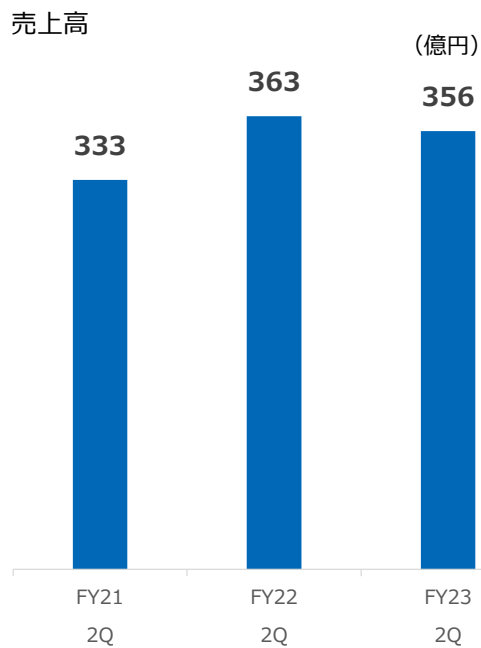
次に、産業機器事業の業績についてご説明いたします。

産業機器事業は、制御機器や電子部品を取り扱っており、その為、国内における設備投資の動向に影響を受けています。

売上高は前年同期比で4.5%増加し、193億円となりました。

コロナ禍の巣ごもり需要縮小などによるデジタル関連需給の悪化を受け、半導体関連向けの販売が減少いたしました。

一方で、人手不足に伴う省力化・自動化需要などを背景に製造業における設備投資が底堅く推移したことにより、制御機器等の販売が増加いたしました。



売上高 前年同期比△2.0%

ルームエアコンの出荷減に伴う空調関連部材の需要停滞を受け、主力製品である被覆銅管や空調配管化粧カバー「スリムダクトシリーズ」などの販売が伸び悩んだほか、海外における設備投資需要の減退に伴い連結子会社の(株)パトライトが減収。

自社ブランド

INABA DENKO

Abaniact

PATLITE

次に自社製品事業の業績についてご説明いたします。

自社製品事業は3つのブランドで構成されております。

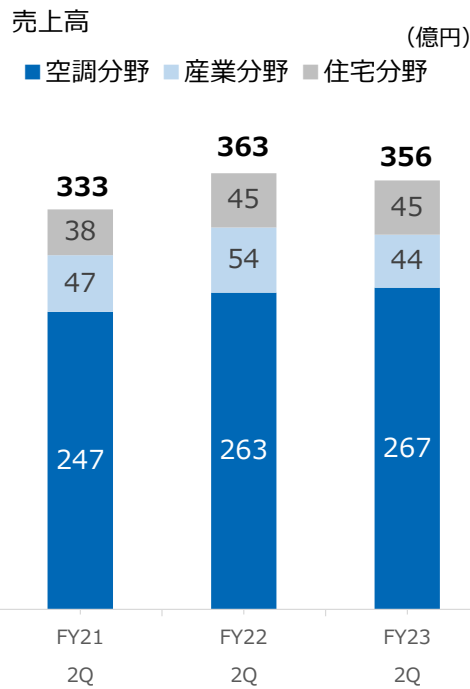
空調分野の「INABA DENKO」

住宅分野の「アバニアクト」

そして産業分野の「パトライト」でございます。

売上高は、前年同期比で2.0%減少し、356億円となりました。

自社製品事業-分野別



空調分野 **INABA DENKO**

売上高 前年同期比+1.3%

自社製品事業の7割を占める収益の柱

参考指標

	前年同期比	
	FY22 2Q	FY23 2Q
ルームエアコン 国内出荷台数	Δ4.3%	Δ8.9%

出所：日本冷凍空調工業会

産業分野 **PATLITE**

売上高 前年同期比△19.5%

海外における設備投資需要の減退などで大幅減収

住宅分野 **Abaniact**

売上高 前年同期比△0.2%

自社製品の販売が低調に推移

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

INABA

9

自社製品事業の分野別の業績についてご説明いたします。
売上高は左のグラフの通りでございます。

空調分野は前年同期比で1.3%の増加に留まり、267億円となりました。
猛暑ではありましたが、コロナ禍後の巣ごもり需要の減退によってルームエアコンの出荷が減少いたしました。それに伴い空調関連部材の需要停滞を受け主力製品である被覆銅管や空調配管化粧カバー「スリムダクトシリーズ」などの販売が伸び悩みました。

産業分野は前年同期比で19.5%減少し、44億円となりました。
海外における設備投資需要の減退に伴い、大幅な減収となりました。

住宅分野は前年同期比で0.2%減少し、45億円となりました。
新設住宅着工数が減少するなか、自社製品販売が低調に推移し、売上は横ばいとなりました。

空調分野に偏った売上を変革すべく、開発機能の一層の強化を図り、新たな収益の柱となる新製品開発に取り組んでおります。
セグメント別業績の説明は以上となります。

営業外損益

(百万円)

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額	増減率
受取配当金	487	431	-55	-11.5%
為替差益	655	336	-318	-48.6%
その他	452	174	-277	-61.4%
営業外収益 (A)	1,594	942	-652	-40.9%
支払利息	6	8	2	43.0%
その他	27	54	26	95.0%
営業外費用 (B)	33	62	29	85.6%
営業外損益 (A - B)	1,560	879	-681	-43.6%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

 INABA

10

次に、「営業外損益の状況」について、ご説明いたします。

営業外収益は、海外子会社を中心に為替差益の計上が縮小し、減少いたしました。一方で、営業外費用は微増となりました。

その結果、営業外損益は8億7,900万円となりました。

特別損益

(百万円)

	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額	増減率
投資有価証券売却益	455	288	-166	-36.6%
関係会社株式売却益	13	-	-13	-
固定資産売却益	5	6	1	21.4%
特別利益 (A)	473	294	-178	-37.7%
固定資産除却損	7	4	-2	-37.9%
固定資産売却損	1	0	-1	-100.0%
特別損失 (B)	8	4	-4	-48.4%
特別損益 (A - B)	465	290	-174	-37.5%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

 INABA

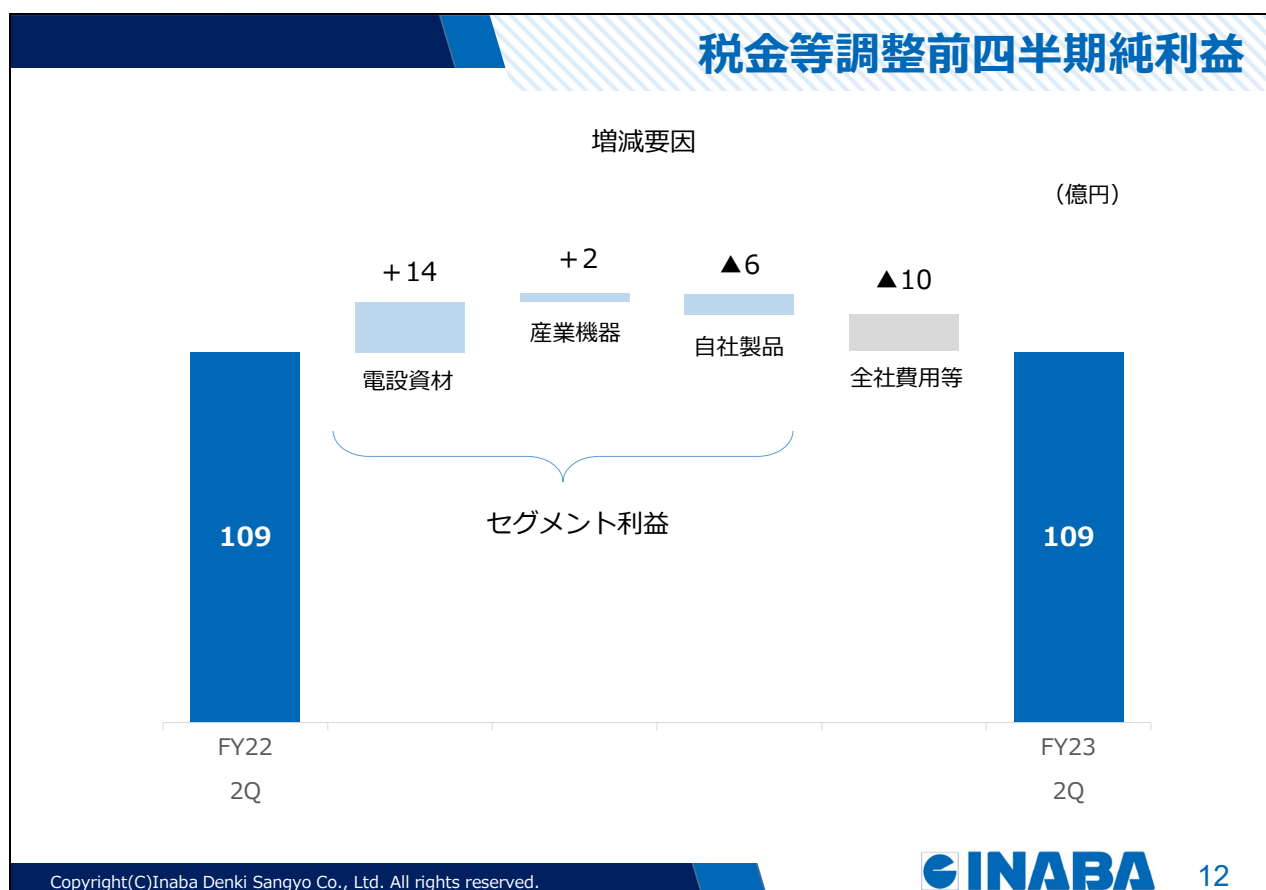
11

「特別損益」に関しましては、ご覧の通りでございます。

投資有価証券売却益につきまして、前期に続き政策保有株式の一部を売却しましたが、1億6,600万円減少いたしました。

その結果、特別損益は、2億9,000万円となりました。

税金等調整前四半期純利益



当社では「税金等調整前四半期純利益」を管理会計上の利益指標としております。

その増減要因をグラフ化しております。

販売が好調だった電設資材事業と産業機器事業では増益となりましたが、市況環境が低調だった自社製品事業は減益となりました。

これに加え、為替差益や投資有価証券売却益の減少によって全社費用等が増加したことにより、利益は横ばいとなりました。

連結貸借対照表

(百万円)

	FY22	構成比	FY23 2Q	構成比	増減額	増減率
流動資産	196,328	80%	187,831	78%	-8,497	-4%
固定資産	49,317	20%	51,764	22%	2,446	5%
資産合計	245,646		239,595		-6,050	-2%
流動負債	88,768	36%	75,506	32%	-13,261	-15%
固定負債	5,649	2%	6,834	3%	1,184	21%
負債合計	94,417	38%	82,340	34%	-12,076	-13%
純資産合計	151,228	62%	157,254	66%	6,025	4%

次に「連結貸借対照表」をスライドに表しております。

負債の減少は、主に電設資材事業において前期末に計上が集中した債務が減少したことによるものであります。

また、現預金の増減につきましてはキャッシュ・フローのページでご説明いたします。

なお、自己資本比率は 4.1 ポイントアップし、65.3%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

	(百万円)		
	FY22 2Q	FY23 2Q	増減額
営業キャッシュ・フロー	-2,105	3,450	5,556
投資キャッシュ・フロー	-3,369	6,349	9,719
財務キャッシュ・フロー	-2,675	-2,963	-288
現金及び現金同等物にかかる換算差額	153	115	-38
現金及び現金同等物の増減額	-7,996	6,952	14,948
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,572	60,834	-3,737

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

 14

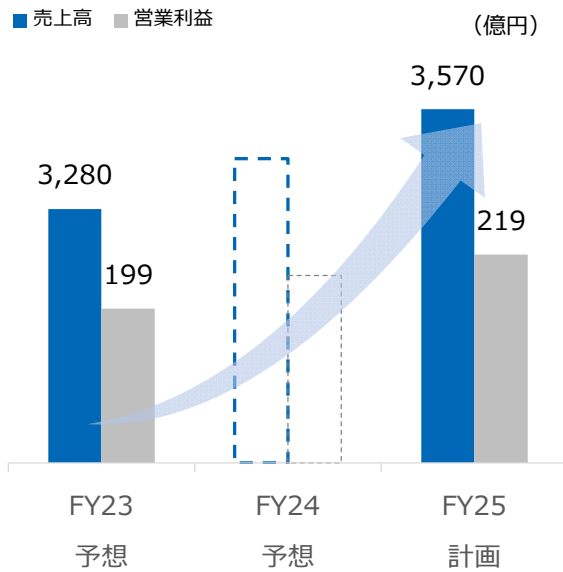
次は「連結キャッシュ・フロー計算書」をスライドに表しております。

営業キャッシュ・フローは、34億円のキャッシュ・インとなりました。これは主に、下請取引代金の現金支払い増加による影響が一巡し、仕入債務の減少額が縮小したことによるものでございます。

投資キャッシュ・フローにおける収入は、主に定期預金の払戻と預入の収支によるものでございます。

財務キャッシュ・フローにおける支出は、主に配当金の支払いによるものでございます。

この結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は、前年同期末と比べ37億円減少し、608億円となりました。



重点施策

- ① 自社製品の開発・拡充
- ② 省エネ・省力化ソリューションの推進
- ③ 首都圏市場におけるシェア拡大
- ④ グローバル展開の加速
- ⑤ 事業領域の拡大
- ⑥ ESG経営の推進

ここからは、「中期経営計画」についてご説明いたします。

当社は、経営環境の変化や計画の達成度に応じて、毎年度、向こう3カ年の数値目標をローリングし、見直しております。

2025年度の計画は、売上高 3,570 億円、営業利益 219 億円を数値目標としております。

中期経営計画を達成するため、6つの重点施策を掲げ着実に実行してまいります。

今回は一部の重点施策について、トピックスをご紹介します。

環境に優しい
人に優しい
建物に調和した仕上がり
樹脂製ケーブル保護管

カーボンニュートラル提案
グリーン電力
(CO₂排出ゼロ)で製造

軽量、施工が簡単

整直性に優れた樹脂製管

メタグリーン

樹脂製ケーブル保護管

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

INABA

16

まずは「自社製品の開発・拡充」にかかわるトピックスです。

因幡電機オリジナル製品として樹脂製ケーブル保護管「メタグリーン」を今年の6月に発売いたしました。

「メタグリーン」は、再生可能エネルギーを使用したカーボンニュートラルファクトリーで製造し、SDGsの達成に貢献する環境に配慮した製品です。

樹脂製のケーブル保護管であるメタグリーンは、従来の鋼管と比較して1/3の重量のため、安全に施工ができるほか、製品の運搬時も一人で容易に多数の製品を運ぶことが可能です。

また、専用工具を使わず、簡単に施工できるため、作業工数の削減を図れ、これらの特長から労働時間の大幅な短縮が期待できます。

引き続きお客様のニーズを捉えた新製品の開発・拡充に注力してまいります。

トピックス-グローバル展開の加速

米国に因幡電工の現地法人を設立

空調関連部材をはじめとする「因幡電工(INABA DENKO)」製品の拡販を目指す



INABA DENKO
AMERICA

会社名 Inaba Denko America Inc.

所在地 アメリカ合衆国カリフォルニア州
トーランス市



Instagram @inabadenkoamerica
HP <https://inabadenko-america.com/>

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

INABA

17

続いて「グローバル展開の加速」に関するトピックスです。

空調関連部材を扱う自社ブランド「INABA DENKO」においては、アメリカでの事業拡大を図るため、昨年3月に現地法人を設立し、今年1月より営業をスタートいたしました。

アメリカでは換気ダクトなどで各部屋をつなぐセントラルエアコンが主流でございます。

一方、近年における環境意識の高まり、省施工・省エネルギー性の観点から日本では主流であるセパレート式エアコンが注目を集めております。

現在、アメリカ全域を対象とした現地代理店を通じた販売拡大を図っております。

また、当社の製品を幅広く知っていただくため、SNSなどを活用しながら認知度の向上に努めております。

今後、因幡電工の豊富な商品ラインナップと並行して、現地ニーズに沿ったローカライズ製品開発を展開していく計画でございます。

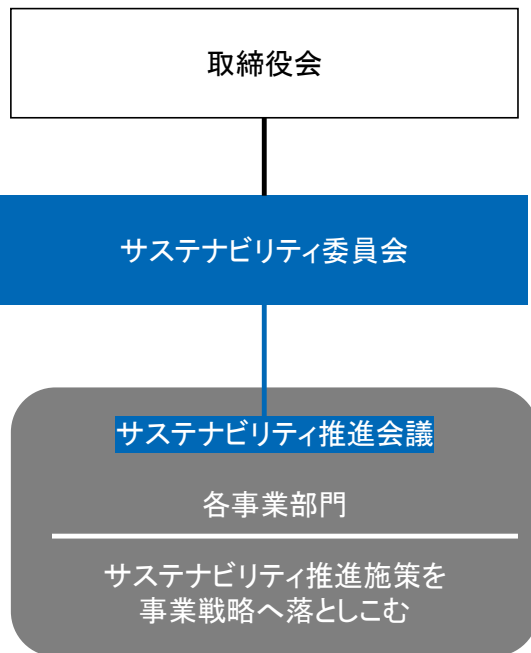
トピックス-ESG経営の推進

サステナビリティ推進会議 検討テーマ

- ・2022年度 気候変動



- ・2023年度 人的資本



最後に「ESG経営の推進」に関するトピックスです。

当社は社会的責任におけるマテリアリティに「多様な商材とユーザーニーズとの橋渡し」、「安全な社会資本の整備」、「人と技術と環境の調和」を掲げ、持続可能な社会に貢献してまいります。

昨年6月には「サステナビリティ委員会」を設置いたしました。

また同委員会の下に各事業部門の実務リーダーを中心に構成する「サステナビリティ推進会議」を設置し、重要課題の取り組みを進めております。

昨年度は気候変動への対応として、TCFDの枠組みに沿った開示内容の充実や環境商材の拡販に向けたプロジェクトを実施いたしました。

本年度は「人的資本経営の推進」をテーマに活動しております。

引き続きサステナビリティに関する課題について真摯に向き合い、対策を講じ、当社が社会に必要とされる価値ある企業として認められるべく努力をしてまいります。

2024年3月期 業績予想

	(百万円)					
	FY22	構成比	FY23	構成比	増減額	増減率
売上高	316,947	100%	328,000	100%	11,052	3.5%
営業利益	18,641	5.9%	19,900	6.1%	1,258	6.8%
経常利益	20,272	6.4%	20,800	6.3%	527	2.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	15,427	4.9%	14,300	4.4%	-1,127	-7.3%

(セグメント別売上高)

電設資材	210,615	66%	218,000	66%	7,384	3.5%
産業機器	39,996	13%	40,000	12%	3	0.0%
自社製品	66,335	21%	70,000	21%	3,664	5.5%

Copyright(C)Inaba Denki Sangyo Co., Ltd. All rights reserved.

 19

2024年3月期の「業績予想」に関しましては、ご覧の通りでございます。

売上高 3,280 億円、営業利益 199 億円、経常利益 208 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 143 億円の見通しです。

なお親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2022年度における「賃上げ促進税制」の効果が縮小することにより、減益予想となっております。

また、セグメント別の売上高はご覧の通りです。

上半期につきましては電設資材・産業機器事業を中心に増収となりました。

下期以降も企業の設備投資が堅調に推移すると期待される一方、半導体業界の動向や地政学リスクの高まりなどによって、先行き不透明な状況が予想されることから、業績予想は据え置きとさせていただきます。

経営企画室

Tel 06-4391-1835
Fax 06-4391-1856
E-mail keiki@inaba.co.jp
URL コーポレートサイト
<https://www.inaba.co.jp/>



以上で、因幡電機産業株式会社2024年3月期第2四半期決算の説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。